

(5) 自閉症児に対する視覚的構造化による余暇スキルの指導

川崎医療福祉大学大学院 医療福祉学専攻 修士課程 ○小松原昌子

川崎医療福祉大学 医療福祉学科 寺尾 孝士

川崎医療福祉大学 医療福祉学科 重松 孝治

【要旨】**1. はじめに**

余暇とは自由に楽しむ活動と場面であるが、自閉症児は想像力の障害があるため、そのような場面では混乱や不適切な行動の原因となる。そのうえ自閉症児は余暇活動を行うためのスキルを自ら身につけることが困難であることから、余暇スキルを丁寧に教える必要がある。

2. 目的

自閉症児の余暇スキル獲得に向けて、視覚的構造化を用いて個別化された指導を行い、対象児が余暇スキルを自立的に行えることを目的とした。

3. 対象および方法

児童発達支援センターに在籍する軽度知的障害を伴う自閉症児1名(5歳)を対象とし、個別化された指導を行った。PEP-3検査とインフォーマルな評価を行い、これらの評価と対象児の興味関心から、「ぬる」「きる」「はる」のスキルを組み合わせ、「ロケット」の貼り絵を完成することを指導目標とした。評価・

観察の結果をもとに課題を作成し、指導は3段階に分けて行った。Ⅰ期は1つのスキルを使って行う課題である。Ⅱ期は「ぬる」「きる」を連続して行う課題である。Ⅲ期は3つのスキルを連続して行う課題である。指導者と1対1の場面で出来た後に、対象児が一人で行う自立の場面で課題を完成することで合格とした。

4. 結果及び考察

Ⅰ期は「ぬる」「きる」は5回で、「はる」は9回で合格した。Ⅱ期は4回で合格し、Ⅲ期は2回で合格した。このような結果が得られたのは、枠を色で強調したり、同じ色同士をマッチングさせる等の視覚的構造化をしたことが有効であったと思われる。しかし手順については指さしと声かけでは伝わらなかったことから、視覚的な情報が不足していることがわかった。視覚的な指示の絵をつけることにより合格したことから、対象児にとってこの視覚的な指示が適切であったことがわかった。この絵による指示は、今後さまざまな余暇活動を行うに当たっても有用であると考えられる。